

平成 22 年度
年度計画の実施状況に係る
自己点検評価書

平成 23 年 6 月

国立大学法人金沢大学

目 次

教育研究等の質の向上の状況

I. 大学の教育研究等の質の向上に関する目標	1
1. 教育に関する目標	1
2. 研究に関する目標	15
3. その他の目標	19

業務運営・財務内容等の状況

II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標	28
III. 財務内容の改善に関する目標	33
IV. 自己点検・評価及び当該状況に係る 情報提供に関する目標	37
V. その他の業務運営に関する重要目標	39

教育研究等の質の向上の状況

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 1 教育に関する目標
 (1) 教育内容及び教育の成果等に関する目標

中期目標 【アドミッション・ポリシーに基づく入学者選抜等】
 <学士課程>
 多様な能力、資質、関心を持った意欲的な学生を発掘し、受け入れる。

<進捗状況>
 IV: 年度計画を上回って実施している
 III: 年度計画を十分に実施している
 II: 年度計画を十分には実施していない
 I: 年度計画を実施していない

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【1-1】 各学類の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)に応じた効果的な学生募集を展開するとともに、AO入試・推薦入試等多様な入学者選抜方法を含めた現行の入学者選抜方法の見直しを進める。	① 入学者受入方針とともに、各学類の教育課程を通じて培う学力をキーワード等で大学案内等に明記し、学生募集を展開する。	III
	② オープンキャンパス、高等学校との懇談会、進学説明会、大学見学会、出張講義及び高大連携講座などを活用して、入学者受入方針に基づいた学生募集を展開する。	III
	③ 前年度までの入学者選抜結果を踏まえ、入学者選抜方法の見直しを検討する。	III

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	社会的ニーズも踏まえながら、社会人・留学生を積極的に受け入れる。
----------	----------------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【2-1】 各研究科・専攻のホームページの充実や大学院説明会等を通じて、各方面における入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)の認知度を高めるとともに、効果的な大学院生募集を展開し、社会人・留学生の入学者を増加させる。	① 社会人と留学生の入学者を増加させるために、入学者受入方針に基づいて、大学院説明会や外国語版も含めたホームページを充実するとともに、長期履修制度の活用や入試方法の改善等を検討し、その方策を実施する。	IV

中期 目標	【教育課程】 ＜学士課程・教養教育＞ 学士教育の基盤となるべき知識・技能・教養とともに、より発展的で幅広い知識や現代的な教養を備えた人材を育成する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【3-1】 コア・カリキュラム型の教養教育を進展させ、学士教育全体並びに各学域・学類の基盤となる科目を提供するとともに、幅広い知識や現代的な教養に関する科目を充実する。また、言語(日本語及び外国語)運用能力や情報リテラシーに優れた学生を育成するためのカリキュラムを開発する。	① 現代的な教養に関する授業群として、環境・ESD(持続可能な開発のための教育)や国際コミュニケーションに係わるコア・カリキュラムを開発し、それぞれをパッケージ化した認定プログラムの新設について検討する。	IV
	② これまでの情報処理基礎の教育実践結果に基づき、その教育内容及び方法について検討し、カリキュラムの再開発を行う。	II
【3-2】 運営においては、各授業担当グループが提供する科目の配当や体系を整備し、全学出動体制を更に実質化する。	① 基礎科目・言語科目を中心に、各授業担当グループが提供する科目体系の整理と年次配当について検討する。	III
	② 開講授業数について、適正コマ数を検討する。	III

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	【教育課程】 <学士課程・専門教育> 学域学類制の定着と実質化を推進し、専門分野における基礎的及び発展的能力と、現代の社会と自然に関する総合的見識とを備えた幅広い職業人を養成する。
----------	---

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【4-1】 3学域・16学類の教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)を定め、教育プログラムを策定することにより、専門性と学際性を育む複線型教育を行う。	① 学域学類制への再編の成果を分析する方法を立案する。	IV
	② 学類1, 2期生の入試学力と学士教育到達度(平均GPA)のデータを収集し、解析する。	III
	③ 学域学類制の実質化に向けて、各学域・学類の教育課程編成方針を明確にし、教育プログラムとして具体化する作業を進める。	III
【4-2】 学域共通科目を整備し、学類の枠を越えた学域として共有すべき素養を涵養する。	① 各学域・学類の専門基礎科目(学域共通科目、学類共通科目等)と学類専門科目との繋がりについて検討する。	III
【4-3】 現代的課題の一である環境問題に関する見識を備えた人材を育成するため、学士課程(教養教育・専門教育)及び大学院博士前期課程に、それぞれの課程に応じた環境教育のプログラムを構築する。	① 教養教育のコア・カリキュラム型授業の実施を念頭に、環境・ESD(持続可能な開発のための教育)に関連する既存の共通教育科目の教育内容の点検・見直しを行うとともに、新規の関連科目を開発する。	IV
	② 環境・ESDに関連する既存の学士課程・専門教育及び大学院博士前期課程の科目の点検・見直しを行い、全学的な環境・ESD教育リソースとして整備することを検討する。	III

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	【教育課程】 <大学院課程・博士前期課程及び修士課程> 社会的ニーズの多様化に対応するために、専門性と学際性を備えた幅広い職業人の養成を行う。あわせて、区分制大学院においては博士後期課程の基礎的な教育を施す役割を担う。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【5-1】 各研究科の教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)を定め、それに応じた学位取得のための効果的な教育プログラムを提供する。それにより、教育を充実させ、学位の質を保証する。	① 各研究科において、それぞれの特性を踏まえた教育課程編成方針を策定し、その方針に基づいたカリキュラムと教育プログラムの編成、科目の設定、履修モデルの作成等の作業を進める。	Ⅲ
	② 区分制大学院では、博士後期課程の基礎的な教育を施すためのカリキュラムを設定し、このカリキュラムに従った教育プログラム及び科目を設定する。	Ⅲ

中期 目標	【教育課程】 <大学院課程・博士後期課程及び博士課程> 学際的視野とともに、専門分野における極めて高度の研究能力を有する研究者及び高度の専門的知識を備えた先端的職業人を養成する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【6-1】 各研究科の教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)を定め、それに応じた学位取得のための効果的な教育プログラムを提供する。それにより、学位取得率を一層向上させるとともに、学位の質を保証する。	① 各研究科において、それぞれの特性を踏まえた教育課程編成方針を策定し、その方針に基づいたカリキュラム、教育プログラム、科目等の編成作業を進める。	Ⅲ

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	<p>【教育課程】 <専門職大学院課程・法務研究科> 設置理念に従い、高度の専門知識及び専門技量を備え、幅広い法的問題に対処できる優秀な法曹を育成する。</p>
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
<p>【7-1】 入学定員の削減と短縮コースの定員化について、入学者選抜における競争性確保という観点から検証する。また、修了者の質の保証という観点から、少人数教育を充実し、進級にあたりGPAによる総合評価を行うとともに、より厳格な成績評価を実施する。</p>	① 標準コース、短縮コースのそれぞれについて、出願者数・受験者数・合格者数・入学者数に基づいて定員削減の効果を検証する。	Ⅲ
	② 「法科大学院教育の質の向上のための改善方策について(報告)」(中央教育審議会大学分科会法科大学院特別委員会・平成21年4月17日)に示された競争倍率(受験者数/合格者数)2倍が維持されているかを目安に、質の高い入学者が確保されるための競争性の有無を検証する。	Ⅲ
	③ 教育効果を充実させるために、カリキュラム改正を実施する。	Ⅳ
	④ 少人数教育における効果的な教育方法を検討する。	Ⅲ
	⑤ 各学生に2名のアドバイザー教員を配置し、各学期に定期的な面接を実施する制度を引き続き実施する。	Ⅲ
	⑥ 社会人学生を含む「完全未修者」の教育の在り方を検討する。	Ⅲ
	⑦ 進級にあたりGPAによる総合評価を行うとともに、成績評価基準に基づき厳格な成績評価を実施する。	Ⅲ

教育研究等の質の向上の状況

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【8-1】 授業の目的に応じて授業形態を多様化し、少人数教育やTA(ティーチング・アシスタント)の活用を推進する。	① 各学域・学類における、授業の目的に応じた授業形態の多様化の実情を調査し、結果をとりまとめる。	Ⅲ
	② 各学類並びに共通教育各グループを対象に、TAの活用状況調査を実施し、TAを活用した少人数教育の実施に向けた課題を整理する。	Ⅲ
	③ 教員を対象に、TAの新しい活用方法を検討するためのFD研修会を開催する。	Ⅲ
【8-2】 アドバイス教員が学生の履修計画をアドバイスすることにより、学生が学域・学類の教育プログラムの下で体系的に学ぶことができるように、卒業に至るまで指導するシステムを拡充する。	① 単位充足度把握システム(アドバイス教員が担当学生の単位修得状況を把握できるシステム)の全学的な導入をめざして、試行と検証を行う。	Ⅲ
	② アドバイス教員とその担当学生がアカンサスポータル(学務や学習に関する情報を入手できる本学独自のワンストップサービスのサイト)の機能を有効に利用できるように、アカンサスポータルのシステム支援体制について検討する。	Ⅲ

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	【教育方法】 <大学院課程> 学位取得のための効果的な教育プログラムの下で、社会人・留学生を含む個々の大学院生の研究課題に応じた教育を行う。	
中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【9-1】 複数の指導教員により、個々の大学院生の研究課題に対応した履修指導を行う。	① 研究科はその特性と必要性に応じて、入学から修了にいたるまで、個々の大学院生の研究課題の設定、研究の指導、時宜を得た履修相談を行うために、複数指導教員体制を維持し、推進する。	Ⅲ
【9-2】 社会人・留学生の大学院生を指導するための教育方法・授業方法の改善に取り組む。	① 大学院教育に対する社会人や留学生の多様なニーズを把握し、そのニーズに応じて指導するための教育プログラムや科目、研究指導方法の開発に取り組む。	Ⅲ

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	<p>【成績評価】 学士課程では、厳格な成績評価を行うことにより、各学類が付与し得る質の高い学士力(学力の達成度)を保証する。大学院課程では、厳格な成績評価を行うことにより、学位の質を保証する。</p>
----------	---

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
<p>【10-1】 学士課程では、各学類が付与し得る学力の目標を確立するとともに、それを各学類の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)として定め、それに基づいて成績評価を行う。</p>	<p>① 各学域・学類の教育課程編成方針の策定作業と連動させながら、各学類において、学力の目標を確立し、それを学位授与方針として具体化する作業を進める。</p>	Ⅲ
	<p>② 各学類において、各科目の達成目標と成績評価基準を明確にし、厳格に運用するためのFDを開催する。</p>	Ⅲ
<p>【10-2】 大学院課程では、各研究科の学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を定め、それに基づいて成績評価を行う。</p>	<p>① 学位の質を保証するため、各研究科で学位授与方針を定め、それに基づいて学位論文の審査等において厳格な成績評価を実施する体制を整備する。</p>	Ⅱ
	<p>② 学位授与方針に基づいて、各授業科目の到達目標をシラバスでより一層明確に設定し、それに基づいて成績評価を行う体制を整備する。</p>	Ⅱ

教育研究等の質の向上の状況

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 1 教育に関する目標
 (2) 教育の実施体制等に関する目標

中期 目標	【教職員の配置】 FD, SDを通じて教育能力, 教育支援能力の向上に努め, これらの能力を身に付けた教職員を適切に配置する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【11-1】 ICT教育推進担当の教職員が, ICTの特長を生かした教育サービスを全学的に提供する体制を整備する。	① これまでに蓄積されたノウハウを基盤としてFD・ICT教育推進室と情報戦略本部との連携を強化し, アカサスポータルの全学的展開の基本(計画)方針を策定する。	III
【11-2】 教員の教育能力の向上を目的とするFDを定期的に開催する。また, 職員の教育支援能力の向上を目的とするSDを定期的に開催し, 関連するFDに職員も積極的に参加する体制を整える。	① 各部局等において, 授業の内容・方法の改善及び学生支援のための組織的なFD研修会等を開催する。	III
	② 学生系職員のFDへの積極的参加を促すとともに, SD研修会を開催する。	III
	③ 「金沢大学におけるFD活動指針」に基づき, 各部局等はFD・SD活動の実施内容等を点検し, FD委員会は, 点検結果に基づき, 必要に応じ, FD・SD活動の改善のための適切な措置を講ずる。	III

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	【教育環境の整備】 教育資源を効果的かつ効率的に活用する環境を充実・整備する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【12-1】 アカサポータル(学務や学習に関する情報を入手できる本学独自のワンストップサービスのサイト)を拡充することにより、多様な教育と多様な学生に対して、ICTの特長を生かした教育サービスを提供する。	① 単位の実質化につながる予習・復習環境の充実のため、アカサポータルを活用した教育支援を行う。	III
	② ICT教育に活用するためのアカサポータルの使い方及び活用方法について、教職員向けの研修を実施する。	III

中期 目標	【教育の質を改善するためのシステム】 教育の質を全学並びに各部署で検証・評価・改善するシステムを構築する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【13-1】 卒業時における学力の達成度を評価し、在学生の学力向上にフィードバックさせるシステムを開発する。	① 卒業時に各学類が付与しうる学力の達成度を測るための調査内容・方法・項目・対象・分析・評価等を検討する。	III
【13-2】 学生及び大学院生による授業評価や教育効果・学習成果についての教員を対象とするアンケートを活用し、教員の教育能力の向上を支援するシステムを強化する。	① 教員の教育能力の向上を支援するシステムとしての「金沢大学におけるFD活動指針」に基づくPDCAサイクルに沿った取組みを実施する。	III

教育研究等の質の向上の状況

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標

1 教育に関する目標

(3) 学生への支援に関する目標

中期
目標

【学生への学習支援, 生活支援】

「教育内容及び教育の成果等に関する目標」を実現するため、学生の学習を支援する制度及び学生の学習基盤である生活を支援する制度を整備する。

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【14-1】 学生に加えて、大学院生を対象とした奨学金制度を導入し、学長研究奨励費や海外語学研修制度と統合した新たな奨学・奨励制度を整備する。また、経済的理由で進学・修学が困難になった学生・大学院生に対する財政支援制度を導入する。	① アカンサス・スカラシップ制度を改革し、大学院生を包含する新たな奨学・奨励制度を整備・実施する。	III
	② 経済的に困窮している学生・大学院生に対する財政支援制度の導入について検討する。	IV
【14-2】 各学域・学類及び保健管理センター等が連携し、学生の学習・生活及び心のケアを含めた健康相談体制を拡充する。	① 学生の修学指導・生活指導等の支援のために設置した「学生相談連絡会」のもとで、学生相談担当者等の連携を全学的に進め、学生の修学・生活支援を行う。	III
【14-3】 隔年実施している学生生活実態調査の分析等を踏まえながら、多様なニーズを持つ学生に対する適切な支援を行う。	① 平成21年度に実施した学生生活調査の分析を行うとともに、平成23年度に実施する学生生活調査の内容・方法を検討する。	III
	② 学生の多様なニーズに合わせて、提供コンテンツ(学習用図書, 電子メディア等), 利用環境(アメニティ及びラーニングコモンズ等情報利用空間)などを整備, 充実する。	IV

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	【障がいのある学生に対する配慮】 障がいのある学生の修学・生活支援体制を充実する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【15-1】 障がいのある学生及び障がいのある学生の支援に直接携わる教職員をサポートする全学的な体制を整備する。	① 「金沢大学キャンパスマスタープラン」に従い、障がいのある学生に配慮した施設整備計画を策定する。	III
	② 障がいのある学生を支援する教職員の意識を高めるため、必要な方策を検討する。	III

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	【キャリア形成支援】 安定した就職環境を作るために、学生及び大学院生へのキャリア形成支援を大学教育の一環として位置付け、キャリア教育・就職支援体制を整備する。
----------	---

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【16-1】 キャリア教育を強化するとともに、学生及び大学院生の就職支援体制を更に充実させるため、就職支援室を改組・拡充する。	① 共通教育における「キャリア形成科目」の設定方針・実施方法の見直しを行うとともに、コミュニケーション/プレゼンテーション能力の基礎を涵養するため、全学共通科目(初学者ゼミ、情報処理基礎-PPT利用/技法-)の活用を促進する。	Ⅲ
	② 博士前期課程及び修士課程(教育学研究科をのぞく)において、入学説明・入学者ガイダンスの時点からキャリアパス(進路)の情報提供を行い、職業意識を涵養する教育プログラムや科目の拡充を検討するとともに、就職支援室との連携に基づく支援体制を構築する。	Ⅲ
	③ 求人検索システム、進路報告システム及び就職カルテシステムを活用し、就職支援体制を充実させる。	Ⅲ
	④ 就職支援室の強化・拡充につき、就職支援体制における業務内容を再検討すると同時に、より積極的な教員参加の在り方について調査・検討を開始する。	Ⅲ

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	【外国人留学生の受入れ及び支援】 外国人留学生の受入れを全学的に推進するとともに、外国人留学生の教育と生活に関する支援を推進する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【17-1】 協定校との交流や多様な留学プログラム等、外国人留学生の受入計画を立案・実行するとともに、外国人留学生の日本語学習支援、生活支援及びキャリア形成支援を充実する。	① 現地における学生募集方式の整備・拡充を進めるとともに、協定校を対象とした特別枠のもとで、適宜に外国人留学生の募集を行う。	IV
	② 留学生にとって魅力ある交流プログラムを実施するとともに、新たな短期留学プログラムの開発を行う。	III
	③ ビジネス日本語を含む総合日本語コースを充実する。	III
	④ 国際交流団体との協力などにより、外国人留学生及び留学生家族の日本語学習支援等を行う。	III
	⑤ チューター制度の充実等により外国人留学生の受入れと教育・生活支援を図る。	III

教育研究等の質の向上の状況

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 2 研究に関する目標 (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標
--

中期 目標	世界に通用する高度な学術研究を推進し、卓越した研究成果と将来性のある研究を産み出す先進的研究拠点を目指すとともに、特色ある研究拠点を形成する。
----------	---

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【18-1】 各研究域、がん研究所及び研究を主たる業務とするセンターは、第一期中期目標・中期計画期間中に実施された各種の評価の結果を踏まえ、世界に通用する高度な学術研究を組織的に推進する。	① 第1期中期目標・中期計画期間中に実施された各種の評価の結果を分析し、世界に通用する高度な学術研究(個別研究)を選定するとともに、それらの推進のための組織的及び継続的な取組みの方策を検討する。	IV
【18-2】 各研究域に、先進的研究拠点の中核としての研究センターを時限付きで設置する。	① 各研究域において、先進的研究拠点の形成を目的とした研究センターの設置に向けた検討を行い、可能な研究域において順次センターを設置する。	IV
【18-3】 少数の研究者で構成され、所属組織にとらわれない研究プロジェクトチームを立ち上げ、先進的研究拠点のシーズを形成する。	① 先進的研究拠点のシーズ形成を目的とした組織横断型研究プロジェクトチームの育成と支援の方策を検討する。	IV
【18-4】 能登半島を中心とした総合的・多角的な地域研究を推進し、特色ある地域研究の拠点を形成する。	① 第1期中期目標・中期計画期間中の能登半島を中心とした研究を総括するとともに、能登半島を研究の拠点とする方策を策定し、実施する。	III
【18-5】 科学研究費補助金の年間採択件数について、中期計画開始時比で実質10%程度の増加を目指し、その方策を検討し実施するとともに、その他の競争的研究資金の採択件数を増加させる。	① 第1期中期目標・中期計画期間中の科学研究費補助金等の競争的研究資金に関するデータの分析に基づき、外部資金獲得増に向けての方策を策定し、推進する。	IV
【18-6】 学術論文数・学術書の出版件数を増加させる。	① 教員による論文や学術書の原稿作成支援等、出版件数を増加させる方策を検討する。	III
【18-7】 研究体制強化のための環境を整備し、共同研究、受託研究の件数を増加させる。	① 共同研究、受託研究の件数を増加させるため、イノベーション創成センターは各部局との連携のもとに、研究成果の収集と成果の発信を強化する方策を検討する。	III

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	地域と世界に開かれた先進的研究拠点として特色ある研究の成果を社会に還元する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【19-1】 発明届出件数, 特許実施許諾件数, 研究成果出版件数を増加させることにより, 研究成果を社会に還元する。	① 特色ある研究分野を中心とした発明届出件数, 特許実施許諾件数の増加方策を検討する。	Ⅲ

教育研究等の質の向上の状況

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標 2 研究に関する目標 (2) 研究実施体制等に関する目標

中期 目標	優れた人材が参集する大学を目指し、優秀な人材の確保と育成を推進する。
----------	------------------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【20-1】 優秀な若手人材の確保と育成のための仕組みを構築する。	① 優秀な若手人材確保と育成のための具体的方策を学問分野及び学問領域の特性を考慮しながら、検討する。	III
【20-2】 海外に若手研究者を派遣する制度を構築し、国際性豊かな人材を育成する。	① 本学独自の短期・長期海外派遣制度を検討する。	II
【20-3】 国際的に卓越した研究者等から成る研究アドバイザリーボードを設置し、研究に関する評価と助言を得る。	① 学問分野及び学問領域の特性を考慮しながら、国際的に卓越した研究者等からなる研究アドバイザリーボードの設置を検討し、メンバーの選定を経て一部実施に移す。	II
【20-4】 優秀な女性研究者の確保と育成のための研究環境の整備及び制度の構築を行う。	① 女性研究者が研究を継続するために必要な研究環境及び制度の現状について調査する。	III
	② 男女共同参画に関する広報について、その内容を検討するとともに、女性研究者の登用・養成計画を検討する。	III

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	研究スペースの最適化を図り、世界的な研究拠点となる上で必要な研究設備及び学術情報基盤を計画的に整備する。	
中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【21-1】 全学共用研究スペースを確保し、必要などころへの重点的配分を推進するため、全学共用研究スペースの確保・配分を調整する権限を付与した組織を設立する。	① 全学共用研究スペースの確保・配分を調整するため、共用研究スペースの利用状況の点検評価を行い、問題点、改善点を検証する。	Ⅲ
【21-2】 設備整備に関するマスタープランに基づき、学術研究・技術開発に必要な研究設備を計画的に整備する。	① 設備整備に関するマスタープランに基づく設備を整備する。	Ⅲ
【21-3】 学術研究に必要な学術情報基盤を整備するとともに、「金沢大学学術情報リポジトリ(KURA)」の拡充により本学の研究成果を国内外に発信するなど、研究支援機能を強化する。	① 学術情報基盤として必須の電子ジャーナル及びデータベースを安定的に供給するため、全学的な予算基盤を整備する。	Ⅲ
	② 金沢大学学術情報リポジトリ(KURA)の搭載コンテンツを多様化(学位論文等)するとともに、学内外の諸データベースとの連携を強化する。	Ⅲ

教育研究等の質の向上の状況

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 3 その他の目標
 (1) 社会との連携や社会貢献に関する目標

中期 目標	地域における新産業・新事業の創出に寄与するとともに、地域の抱える問題解決に貢献する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【22-1】 産業界、行政機関及び地域の大学と一体となり産学官連携活動を強化する。	① 産業界、行政機関及び地域の大学と一体となった医商工連携産業・農商工連携産業創出活動を推進する。	III
【22-2】 イノベーション創出に関する活動を通して獲得した種々の情報を学内外へフィードバックし、新たな地域ニーズに対応できる仕組みを構築する。	① 地域の産学官連携活動に寄与するノウハウを蓄積する仕組みを構築するため、自治体・産業界等と連携して検討を開始する。	III

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	社会と連携し、グローバルとローカルな視点から教育・研究を推進するとともに、地域社会の課題解決及び活性化に貢献する。	
中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【23-2】 ユネスコ・スクール及び初等中等教育における持続可能な開発のための教育(ESD)を支援する。	① 持続可能な開発のための教育(ESD)及びユネスコスクール支援に関する学内体制を整備するとともに、ESDの強化を盛り込んだ地域教育プログラムを策定する。	Ⅲ
	② ESD及びユネスコスクールに関する大学間連携を進め、石川県内及び北陸における大学間連携ネットワークの構築を検討する。	Ⅲ
【23-1】 自治体や民間組織等との連携事業, その他本学の研究成果を活用した事業の展開を通じて、地域の活性化及び地域再生に貢献する。	① 包括協定等を締結している地方自治体等と連携し、里山里海事業をはじめとする地域の活性化及び地域再生に係る事業を実施する。	Ⅲ

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	地域の高等教育研究機関が連携する事業を基幹校として主導する。
----------	--------------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【24-1】 県内高等教育機関及び石川県等が連携する「大学コンソーシアム石川」の中核を担う「いしかわシティカレッジ事業」に積極的に参画・主導し、本学の人材・知的財産等を活用して、その教育プログラム等の充実やICT化等の整備拡充を支援する。	① 大学コンソーシアム石川内に立ち上がった「e教育支援センター」に積極的・主導的に参加し、公開講座等が複数大学において受講できるように、ICTを活用した教育を支援する。	Ⅲ
	② 「石川県政記念しいのき迎賓館」の新教室において、ICTを活用した授業や研修会を開催し、まちなかキャンパスとして有効に活用する。	Ⅲ

教育研究等の質の向上の状況

中期目標	研究の活性化・社会貢献に資するため、大学が所有する知的資源をデータベース化するとともに積極的に活用する。
------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【25-1】 本学の知的資源を収集・保存・公開し、共同研究・学際研究の推進、産学官連携、公開講座、研修会等に役立てる。	① 知的資源をデータベース化するための基本構想と開発計画を策定する。	IV

中期目標	住民、国民の健康増進に貢献する。
------	------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【26-1】 「健康増進科学センター」を活用し、地域住民の健康増進のための活動を推進する。	① 既存の健康指標を検証し、新たな健康指標を選定し公開する。	II
	② 健康増進のために必要な知識、技術及び評価方法を踏まえた新たな支援方法の開発に着手するとともに、地域住民を対象とした健康増進活動のためのサポーターを養成し、住民に対する啓発活動を展開する。	II

教育研究等の質の向上の状況

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 3 その他の目標
 (2) 国際化に関する目標

中期 目標	国際的に通用する人材を育成するための学士教育及び大学院教育を実施し、教育の国際競争力を高める。
----------	---

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【27-1】 教育の国際競争力の強化及び外国人留学生の受入増加に対応するため、授業形態の多様化及び教育内容を充実する。	① 各部局、留学生センター及び外国語教育研究センターが協力して、日本人学生と外国人留学生が共に学ぶジョイントクラスの拡充策を策定する。	Ⅲ
	② 研究科は、外国人留学生の受入れに対応して、外国語による授業や特別の教育プログラム等を検討し、実行する。	Ⅲ
	③ 博士後期課程において、外国人留学生と日本人学生とを対象とする環境・ESD(持続可能な開発のための教育)関連の英語による授業科目の新設を検討する。	Ⅱ
【27-2】 学生の海外留学増加に向けた施策を講じる。	① 語学研修・海外研修・留学を推進する実施体制を整備し、これらの充実案を策定する。	Ⅲ
	② 海外の協定校との協力を密にしながら、多様な海外留学プログラムを実施する。	Ⅲ

教育研究等の質の向上の状況

中期 目標	国際交流本部を中心とし、大学の国際化を推進する。
----------	--------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【28-1】 国際公募の実施を含め外国人教員増加のための学内体制を整備する。	① 外国人教員を雇用する際の問題点を抽出し、分析する。	Ⅲ
	② 外国人教員の職務及び生活を適切にサポートする体制について検討する。	Ⅲ
【28-2】 国際交流のための情報発信や窓口となる海外分室(リエゾン・オフィス)を整備・拡充し、教育・研究の国際展開を支援する。	① 既設の海外分室(中国等)の活用を推進するとともに、アジアを中心に海外分室を増設する。	Ⅲ
【28-3】 教育・研究の海外の拠点となる重点交流協定校を含め、海外の大学・研究機関との国際的に共同した教育・研究を推進するとともに、海外と	① 各研究域等において重点交流協定校等の海外の大学等と共同研究等の交流を推進する。	Ⅲ
	② 若手研究者インターナショナル・トレーニング・プログラム(ITP)により、海外の研究所等に研究者を派遣し、研究交流を推進する。	Ⅲ
	③ 留学生支援制度を活用することなどにより、海外との学生交流を推進する。	Ⅳ

教育研究等の質の向上の状況

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 3 その他の目標
 (3) 附属病院に関する目標

中期 目標	地域医療を充実させるために指導的な立場を担う。
----------	-------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【29-1】 附属病院が中心となり地域連携クリニカルパス, 並びに疾患ごとのクリニカルパスを構築し運用する。	① 附属病院を中心とする地域連携クリニカルパスを構築し運用する。	III
【29-2】 地域医療に関する医学教育を充実させる。	① 石川県寄附講座「地域医療教育学」を中心に教育研究を推進する。	III

中期 目標	本学の特徴である医薬保健学域の機能を活用し, チーム医療を実現するための教育体制を構築する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【30-1】 医師, コ・メディカル等の医療人を横断する安全教育及び専門教育を実施する。	① 附属病院各部署は, 実施計画に従いRCA(根本原因解析)ワークショップを実施する。	III
【30-2】 卒前教育と卒後教育の一体的な魅力ある教育プログラムを構築する。	① 卒前教育と卒後教育の状況を検証する。	IV

教育研究等の質の向上の状況

中期目標	橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ), 臨床研究を積極的に推進する。
------	---------------------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【31-1】 橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)を充実させ, 先進医療の提供につなげる。	① 主として, がんや脳科学分野の橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)が円滑に推進できるシステムの構築を図る。	III

中期目標	医療の質を担保し, 先進医療を支える病院マネジメントを推進する。
------	----------------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【32-1】 医療スタッフを確保するため, キャリアシステムを構築する。	① 医療スタッフのキャリアアップのためのシステムを構築し, 看護師, 技師の専門認定資格取得を推進する。	III

教育研究等の質の向上の状況

I 大学の教育研究等の質の向上に関する目標
 3 その他の目標
 (4) 附属学校に関する目標

中期 目標	国立大学附属学校の存在意義をより鮮明にして、教育を巡る今日的課題を掘り起こし、その克服のための先導的・実験的教育実践及び先導的・実験的教育研究を推進する。
----------	---

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【33-1】 幼・小・中・高・特別支援を擁する附属学校園としての利点を生かし、教育の今日的課題へのアプローチをテーマにした実証的教育研究を推進する。	① 学校教育学類・附属学校園研究推進委員会を実証的教育研究の推進母体として位置づけて、教科別研究を基本枠組みとする小委員会を編成し、各小委員会はそれぞれの研究テーマに基づき、学校教育学類と連携して実証的教育研究を推進する。	III
【33-2】 附属学校園及び学校教育学類が一体となって、21世紀教育を牽引していく担い手を育成する体制を整備・充実する。	① 各校園が連携協力して、教育の今日的課題に応じていくための学校基盤・教育基盤の改革を総合的に検討する。	III
	② 学校教育学類と附属学校園が連携協力して、時代の要請に応えるための教員養成の在り方の改善策を検討する。	III
【33-3】 地域の教育界との連携協力のより望ましい在り方を模索しながら、人事交流・研修協力・研究協力等を通して「教育モデル校」として、地域の教員の資質・能力の向上、教育活動を推進する。	① 石川県教育委員会と相互に有益な連携の在り方を模索する。	III
	② 学校教育学類と石川県教育委員会との連携企画に参画して地域の教員の資質・能力の向上に寄与する。	III
	③ 各校園の研究の共有体制・協力体制を整備し、「教育モデル校」として地域の教育界に貢献していくための方策を検討する。	III

業務運営・財務内容等の状況

Ⅱ 業務運営の改善及び効率化に関する目標 1 組織運営の改善に関する目標

中期 目標	教育研究組織の見直しを進めるとともに、戦略的な人員配置を行い、効果的・機動的な運営体制を確立し運用する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【34-1】 平成20年度において教員養成系を含めて入学定員や組織について見直し改組した学域・研究域、及び大学院については、活動・運営に関する適正な評価を行い、必要に応じて入学定員の見直しや組織等についての改組及びそれに伴う戦略的な人員配置を行う。	① 大学院の志願状況・入学状況、修了者の就職状況等を評価しつつ、大学院3研究科(人間社会環境研究科, 自然科学研究科及び医学系研究科)の改組計画を策定する。	Ⅲ
	② 自然科学研究科(博士前期課程)に設置の薬学系専攻(生命薬学専攻, 医療薬学専攻)を改組し、医学系研究科(博士前期課程)に「創薬科学専攻」を設置する。	Ⅲ
	③ 法務研究科については、入学状況や司法試験の合格状況を踏まえ、入学定員を40名から25名に減員する。	Ⅲ
	④ 医師不足に対応するため、医薬保健学域医学類の入学定員を105名から112名に増員する。	Ⅲ
	⑤ 教員の大学戦略枠を使用して、各研究域等の重点強化分野に教員を配置する。	Ⅳ

業務運営・財務内容等の状況

【34-2】 教育・研究に携わるセンター等については、活動・運営について適正な評価を行い、その使命や目的に応じた改組・新規設置等及びそれに伴う戦略的な人員配置を行う。	① 教育・研究に携わるセンター等のうち、第1期中期目標・中期計画期間中に点検評価を実施した部局においては、評価結果の分析に基づき、法人によりその必要性があると判断された場合、再編等を含めた組織改編についての計画策定を行う。第1期中期目標・中期計画期間中に点検評価を実施しなかった部局においては、点検評価を実施する。	Ⅲ
	② 角間キャンパスにおける動物実験研究を推進するため、実験動物研究施設角間分室を設置する。	Ⅲ
【34-3】 がん研究所は共同研究を推進し、共同研究拠点を目指す。	① がん研究所は、がんの転移研究の推進を図るため、従来の2センター2研究分野から4つのプログラムに改組する。	Ⅳ
	② がん研究所は、共同利用・共同研究拠点を指すための体制を整備するとともに、共同利用に供する設備の整備を行う。	Ⅳ
	③ がん研究所は、共同研究課題の公募を10件程度行い、共同研究を推進する。	Ⅲ

業務運営・財務内容等の状況

中期 目標	多様な才能を備えた人材を集め、教職員各人が組織的な教育研究力を高めるとともに、有する潜在的能力を発揮し、主体的にやる気を促すことができる体制を構築する。	
中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【35-1】 教員について、弾力的な勤務形態を導入するため、キャリアパス制度を整備する。	① 選定年制、職務選択制、個人業績評価などの諸制度に関する情報を収集し、制度のフレームワーク構築に向けて検討する。	Ⅲ
【35-2】 事務職員について、国立大学法人等職員採用試験のほか、語学や情報処理等専門的知識や技術・経験を有する人材確保のため、柔軟な選考方法を導入する。	① 事務職員のうち専門職として採用する職種と求めるスキル、その選考方法、将来(キャリアパス)等について検討する。	Ⅲ
【35-3】 ICTを活用した教職員の自主的な研修を支援するための環境を整備する。	① ICTを活用した教職員対象の研修にかかる学内のニーズを把握するとともに活用可能なコンテンツについての情報を収集する。	Ⅲ
【35-4】 教員の資質能力を向上させるため、個々の教員が自己点検・自己評価を行うとともに、教員評価制度を用いて評価を行う。	① 第1期中期目標・計画期間中に実施した教員評価の状況を踏まえ、教員評価システム及び評価項目等について検証する。	Ⅳ
	② 教員評価結果の活用方策について検討する。	Ⅲ
【35-5】 教員の教育研究能力の向上に資するため、サバティカル制度等を整備し、活用する。	① サバティカル制度の導入について検討する。	Ⅲ

業務運営・財務内容等の状況

中期 目標	情報化の推進体制を強化する。	
中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【36-1】 情報戦略本部が策定する情報施策を着実に実施し、情報化の推進に係わる学内組織の連携・協働体制を充実・強化する。	① 情報戦略本部の施策を推進する事務体制の確立について検討する。	Ⅲ

業務運営・財務内容等の状況

II 業務運営の改善及び効率化に関する目標 2 事務等の効率化・合理化に関する目標
--

中期 目標	事務組織の機能・編成を見直し、効率化・合理化を推進する。
----------	------------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【37-1】 業務・運営に関する点検・評価を行うとともに、柔軟な組織編成及び人員配置並びに必要なに応じた業務の外部委託、北陸地域の国立大学法人間の連携を推進し、事務組織を一層活性化す。	① 平成21年度に実施した業務改善ヒアリングの結果を踏まえ、事務組織の機能・編成を見直し、可能な部署から再編する。	III
	② 北陸地区の国立大学法人間の連携により、物品の共同購入を実施するとともに、人事交流及び職員研修を共同して実施する。	III
	③ 業務の外部委託について検討し、実行可能なものから順次実施する。	III
【37-2】 事務データの一元化・情報化により事務情報システムを高度化し、業務の効率化・合理化を進める。	① 汎用システムに代わる新人事・給与、授業料債権・授業料免除、科学研究費補助金の各システムの運用を開始する。	III
	② 人事データの学内各システムでの共有化を進める。	IV

業務運営・財務内容等の状況

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標 1 外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加に関する目標
--

中期 目標	外部資金及びその他の自己収入を安定的に確保する。
----------	--------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【38-1】 インセンティブ制度等の充実により、外部研究資金獲得額を増加させる。	① 将来性のある研究等を重点的に支援すること等により、外部研究資金の獲得額の増加につなげる。	Ⅲ
【38-2】 卒業生、民間企業等との連携を密にして、金沢大学基金を充実する。	① 卒業生アンケートの調査結果を基に卒業生の意見を集約し連携を図る。	Ⅲ
	② 本学卒業生、関係企業からの基金の獲得を推進する。	Ⅲ
【38-3】 大学の保有する資産を活用して、自己収入を得る。	① 活用可能な資産について、収入源となる事項と方策を検討する。	Ⅳ
【38-4】 附属病院における薬品及び医療材料の使用について、正確に把握できるシステムを構築し、効率的な経営を進める。	① 病院情報システムにおける保険請求データベース構造の調査を行い、情報統合の設計を行う。	Ⅲ

業務運営・財務内容等の状況

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標 2 経費の抑制に関する目標 (1) 人件費の削減
--

中期 目標	「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、平成18年度以降の5年間において国家公務員に準じた人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【39-1】 「簡素で効率的な政府を実現するための行政改革の推進に関する法律」(平成18年法律第47号)に基づき、国家公務員に準じた人件費改革に取り組み、平成18年度からの5年間において、△5%以上の人件費削減を行う。更に、「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2006」(平成18年7月7日閣議決定)に基づき、国家公務員の改革を踏まえ、人件費改革を平成23年度まで継続する。	① 第1期中期計画から続いている、平成18年度からの5年間で5%以上の人件費削減計画を着実に実施する。	IV

業務運営・財務内容等の状況

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標 2 経費の抑制に関する目標 (2) 人件費以外の経費の削減

中期目標	業務運営の合理化・効率化により、経費縮減を推進する。
------	----------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【40-1】 業務の見直し、節約及びリサイクルを徹底することにより、経費を抑制する。	① 経費抑制可能な業務の見直しについて検討する。	Ⅳ
	② 資源の有効活用のために廃棄物の再資源化を推進する。	Ⅲ
【40-2】 「節約点検チーム」の活動を徹底し、経費節減を推進する。	① 「節約(SETSUYAKU)しまいかプロジェクト」において、「経費節減のPDCA」を実行することにより、経費節減を推進する。	Ⅲ

業務運営・財務内容等の状況

Ⅲ 財務内容の改善に関する目標 3 資産の運用管理の改善に関する目標

中期 目標	資産の有効利用を推進する。
----------	---------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【41-1】 教育・研究に支障のない範囲で、資産を効率的に運用する。	① 資産の有効活用を推進する方策を検討する。	Ⅲ
	② 資産の効率的な運用を目指して学内・学外共同利用促進の方策を検討する。	Ⅲ
【41-2】 リサイクル活動を通して、物品を有効利用する。	① リサイクル掲示板の運用を推進し、物品の有効利用を図る。	Ⅲ

業務運営・財務内容等の状況

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標 1 評価の充実に関する目標

中期 目標	本学の教育理念・目標に照らして、教育研究等の状況に関する自己点検・評価を実施し、その評価結果を大学運営の改革・改善に活用する。
------------------	---

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【42-1】 評価データベースを整備し、教育及び研究、組織及び運営等に関する自己点検・評価を実施するとともに、評価結果を大学運営の改革・改善に生かすシステムを整備する。	① 自己点検評価、認証評価等に必要なデータ項目を調査・検討する。	III
	② 自己点検評価の統一的な評価項目等のガイドラインを決定し、順次自己点検評価を実施する。	III
	③ 評価結果を活用したPDCAサイクルを確立するためのシステムを検討する。	IV

業務運営・財務内容等の状況

IV 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標 2 情報公開や情報発信等の推進に関する目標

中期 目標	情報提供に関する基本方針に基づき、大学情報の積極的な公開・提供及び広報を行う。
------------------	---

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【43-1】 ホームページ等により、教育、学術研究及び会議等の情報を広く発信する。	① 関係部署と連携し、ホームページ上の学術研究等の情報を充実する。	IV
【43-2】 各研究域、がん研究所及び研究を主たる業務とするセンターは、研究活動をホームページ等で公表するとともに、研究活動報告会を定期的 に開催することにより、研究成果を積極的に発信する。	① 平成21年度に掲載した研究紹介(教員ごと)を充実するとともに、プロジェクト研究についても研究活動をホームページ等で公表する。	III
	② 研究成果を活用した国際シンポジウム、フォーラム等を実施する。	III

業務運営・財務内容等の状況

V その他業務運営に関する重要目標 1 施設設備の整備・活用等に関する目標
--

中期 目標	教育, 研究, 診療の目標や経営戦略を踏まえた施設環境を構築する。
------------------	-----------------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【44-1】 教育研究環境整備の目標と方針をまとめた「金大キャンパスマスタープラン2010版」を策定し, 良好なキャンパスを形成する施設整備を実施し, 学生支援・患者サービスの向上を推進する。キャンパスマスタープランは, 大学改革と社会の変化に応じ, 見直し改訂する。	① 「金大キャンパスマスタープラン2010版」を策定し, 施設整備を実施する。	III
【44-2】 施設の利用状況の点検・評価を行い, 評価結果を活用することにより, 施設の有効活用を行うとともに, 施設の計画的な維持管理の着実な実施等の施設マネジメントを一層推進する。	① 施設の利用状況等の点検・評価を行い, 評価結果を分析する。	III
	② 施設の点検・評価に基づき, 計画的な維持管理のための改善計画を策定する。	III
【44-3】 附属図書館等棟施設整備事業(角間Ⅱ)及び総合研究棟改修施設整備等事業(宝町)について, PFI事業として確実に推進する。	① PFI事業として, 附属図書館等棟施設整備事業(角間Ⅱ)における維持管理・運営を確実に推進する。	III
	② PFI事業として, 総合研究棟改修施設整備等事業(宝町)における維持管理・運営を確実に推進する。	III

業務運営・財務内容等の状況

中期 目標	環境問題への積極的な取組から、良好なキャンパス環境を形成する。
----------	---------------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【45-1】 金沢大学環境方針に従った環境基本計画に基づき、キャンパスの環境保全と改善に努め、適切な環境マネジメントを実施する。環境基本計画は、大学改革と社会の変化に応じて見直し改訂する。	① 化学物質の安全管理及び廃棄物の適正処理，再資源化を推進する。	Ⅲ
	② 資源・エネルギー使用量の抑制やキャンパス屋外緑化等により，キャンパスの環境保全と改善に努める。	Ⅲ
	③ 環境基本計画の見直しを行うとともに，同計画の実施計画を検討する。	Ⅲ
	④ 環境に関わる情報を社会に公開し環境問題に対する啓発と普及に努める。	Ⅲ

中期 目標	本学全体の情報基盤整備を戦略的・効率的に進めるとともに、情報セキュリティを強化することなどにより、安全・安心なキャンパスを実現する。
----------	--

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【46-1】 中・長期のICTインフラ整備及びキャンパス・インテリジェント化計画を策定し、情報セキュリティ対策の実効性ある運用を行い、教育・研究及び組織運営等に係る情報基盤を整備する。	① キャンパスインテリジェント化計画による年次整備計画を策定し、全学の情報化の方針を確定する。また、同計画に従い、情報基盤、教育支援、研究支援など対象別に情報関連機能の高度化と強化を進める。	Ⅲ
	② ICTインフラ整備年次計画に基づき基幹ネットワーク機器の更新を行う。	Ⅳ

業務運営・財務内容等の状況

V その他業務運営に関する重要目標 2 安全管理に関する目標

中期 目標	教育・研究の場にふさわしい、安全で快適な修学・就労環境を整備する。
------------------	-----------------------------------

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【47-1】 大学の特性を踏まえた安全管理・健康管理のための体制を整備するとともに、安全衛生教育その他の施策を推進する。	① 事業場ごとの安全衛生委員会を定期的開催するとともに、安全衛生管理室の機能拡充及び安全衛生マネジメント委員会における安全衛生に関する諸問題の洗い出しを行い、問題点を検討する。また安全衛生に関するホームページを立ち上げる。	III
	② 安全衛生教育マニュアルを作成し、安全衛生に関する予防啓発活動を推進する。	III
	③ 化学物質を中心とした調査、職場巡視及び作業環境測定等を実施する。	III
	④ 職員に対する健康診断後の事後フォローの充実及び定期健康診断の未受診者を減らす方法を検討し試行する。	III
	⑤ インフルエンザ対応マニュアルをブラッシュアップする。	III

業務運営・財務内容等の状況

V その他業務運営に関する重要目標 3 法令遵守に関する目標

中期 目標	法令・指針の遵守について、教職員に周知するとともに、業務の適正を確保するためのコンプライアンス体制を整備する。
------------------	---

中 期 計 画	平成22年度年度計画	進捗状況
【48-1】 教職員に対し、法令・指針の遵守に関する研修及び説明会を実施するとともに、適正に経理等を管理・執行するため内部監査を毎年実施する。	① 法令遵守に関する研修もしくは講習を実施する。	III
	② 科学研究費補助金公募要領等研修・説明会等を通し、公的資金の不正使用等の防止の意識徹底を図る。	III
	③ 会計実務研修は、法規、資産、監査、予算、決算、資金、契約、旅費及び謝金の各業務の中から、重点事項を定めて行う。	III
	④ 内部監査及び科学研究費補助金監査の監査内容を見直しながら監査を効果的に実施する。	III
【48-2】 経理等の大学業務について、監査結果が改善に反映するシステムを構築し、適正な法人運営を推進する。	① 監事監査、内部監査及び科学研究費補助金監査における指摘事項に対して、改善報告を提出させ、事後調査を行う。	III
	② 監査結果に基づき、業務の改善・合理化を推進するための組織について検討する。	III